

今月のことば

幸せの
どまん中に
いるのに
幸せが
みえない

(東井義雄「ほのぼのカレンダー」(1996年)より)

龍谷大学非常勤講師

小池 秀章
こいけ ひであき

幸せとは何でしょう。ある人は、「自分が幸せだと思ったら幸せ」と、答えてくれました。そのような面もありますが、それが、すべて本当の幸せだと言えないと思います。

例えば、他人(嫌いな人)の不幸を、私が幸せだと思ったら、幸せなのでしょうか。確かに、私にとっては、他人の不幸を幸せに感じることもあるかもしれませんが、それは、本当の幸せとは言えません。

浄土真宗の僧侶であり、長年、小学校の校長先生をされていた東井義雄さんは、

「幸せの どまん中にいるのに 幸せがみえない」

という言葉を残されています。「幸せを幸せと見ることの出来る眼」を持たなければ、どんなに幸せな状況にあっても、幸せだと感じることはないでしょう。

この「幸せを幸せと見ることの出来る眼」とは、単に自分が幸せだと見る眼ではなく、真実を見る眼、つまり、仏さまの眼のことです。仏さまの眼から見たら、今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなく、有り難いことだったと気づかされるのです。

仏さまの眼から見たら、どのような世界が開けてくるのか、それを聞かせていただくことによって、本当の幸せが見えてくるのです。

台掌